

百歳賀寿 未永く お元気で

●富塚 重治さん (写真：1)

船引町文珠の富塚重治さんが、昨年12月24日に満百歳を迎えられました。

毎年秋になると干し柿づくりに専念し、95歳まで続けてきました。「自分のことは自分でやる」が長寿の秘訣だそうです。

贈呈式は長男の富塚重信さんが代理で受領しました。



●吉田 榮一さん (写真：2)

常葉町久保の吉田榮一さんが、昨年12月26日に満百歳を迎えられました。

志願兵として戦争を経験、自らも3度負傷し、「あんな経験は二度としたくない」と戦争の悲惨さを切実に語っていただきました。「食べ過ぎないように意識して食事を取る」が長寿の秘訣だそうです。

●菅野 タツノさん (写真：3)

船引町船引の菅野タツノさんが、1月1日に満百歳を迎えられました。

お盆・お正月に親戚が集まると、必ず手打ちうどんをふるまって、みんなを喜ばせていたそうです。誰とでも仲良くでき、隣近所の付き合いを大事にしていたタツノさん。長寿の秘訣は「人と話をするのが好きなこと」だそうです。



●糞田 トリさん (写真：4)

船引町芦沢の糞田トリさんが、1月5日に満百歳を迎えられました。

夫と共に水稲、葉たばこ、養蚕などの農業を営まれていたそうですが、各種役職等で不在がちな夫の分の農作業も補いながら、常に家族のために尽くされたそうです。長寿の秘訣は「好き嫌いせず、なんでも食べる」だそうです。



●石井 幸春さん (写真：5)

常葉町西向の石井幸春さんが、1月7日に満百歳を迎えられました。

98歳まで健康を意識し、毎朝町まで5kmほど歩いていたという幸春さん。現在は庭先で野菜づくりを楽しまれているようで、長寿の秘訣は「体を動かすこと」だそうです。



百歳を迎えられた5人の方々へ、福島県、田村市、田村市社会福祉協議会などから賀寿や祝金などが贈られました。

果樹講習会 りんご栽培の先進地を視察

昨年12月15日、市のりんご栽培講習会に参加する方々が二本松市の羽山果樹組合りんご選果場・ほ場を視察しました。

参加者は、旧岩代町と旧東和町の間にそびえる羽山の麓で盛んにりんごが栽培されるようになった歴史や、寒暖差を利用した栽培方法などの説明を熱心に聞いていました。

市内では、りんごを栽培する方が多くなってきているため、おいしいりんごを生産する技術の向上を目的に開催されました。



菓子開発 船引高校家庭クラブが市産キクイモでお菓子を開発

船引高校家庭クラブは、みやこスイーツゆいの協力を得て開発していた、市産キクイモ(パウダー)を使用した台湾カステラ「ふわッテラ」を完成させ、昨年12月17日に福島県観光物産館で販売しました。

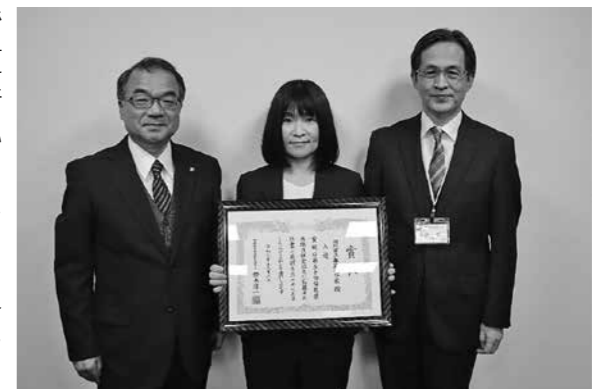
当日、生徒たちは店頭で立って、来場者へ購入を呼びかけ、約1時間で完売することができました。今後は新たな名物になるようさらに研究開発を進め、店舗での販売を目指しています。



教職員研究論文入賞 より良い授業のため職員同士で研究

昨年12月20日、福島県教職員研究論文で入選した都路小学校の安瀬一正校長と岡崎千夏教諭が市役所を訪れ、教育長に受賞の報告を行いました。同校では、「小規模校のよさを生かし、問いを協働で解決する喜びに満ちた授業」をテーマに研究を進め、先生方の教育実践をまとめた研究物が認められました。

岡崎教諭は、「先生方の研究教科がそれぞれ違っているので、それをまとめるのが大変でした」と論文をまとめた苦労を話していました。



▲左から教育長、岡崎教諭、安瀬校長

作文コンクール 全国中学・高校生作文コンクールで全国表彰

「令和3年度『大切な命を守る』全国中学・高校生作文コンクール」で、船引中学校3年の高橋未来さんが「警察庁長官賞」、同じく鹿又由菜さんが「警察庁犯罪被害者支援室長賞」を受賞しました。昨年12月23日、2人は助川徹校長、保護者と共に市役所を訪れ、受賞の報告を行いました。市長と教育長から「作文の内容がすばらしく読み手に思いが伝わる構成となっている。今後もさまざまな場面で文章を書くことを大切にしてほしい」と励ましの言葉が贈られました。



▲中央左：高橋未来さん、中央右：鹿又由菜さん